

火災保険は本当に守ってくれるのか

### ～その3（保険会社の調査）

火災が起きると保険会社の調査員（若しくは保険会社が依頼した調査会社の調査員）がやって来て、「この度は、大変な目に遭われましたね。お見舞い申し上げます。少しだけ、お話を聞かせて下さい。なに、**保険金を受け取るために必要な調査です。形の上だけですから。**」というような顔をして調査をしていきます。

形の上だけだからといって、適当に説明をしてしまうと、後に訴訟になったときに、この調査員が作った報告書が、**保険会社側の重要な証拠**として提出されてくること**があるので、十分気をつけて下さい。**

保険会社の調査員に対する説明と、警察・消防に対する説明が食い違っていたりすると、後に消防から火災調査報告書等が出てきた場合、誠実な説明をしていない（何か裏があるんじゃないか）ということの証拠とされてしまう危険性すらあるのです。

当然、火災に遭われた方としては、突然の自宅焼失で呆然となってしまう、何をどう説明すればいいのか分からないこともあると思います。しかし、そこでのお話が、後の保険金請求に影響する可能性があることを忘れないで下さい。**調査員は、保険金を支払いたくて来るのではありません。できれば、払わずに済む方法はないかと考えつつあなたの話を聞いているのです。**

したがって、調査員の調査を受けるときは、当時の事実と反していないか、一つ一つ注意深く、調査員に話をするようにしてください。

また、同じ話でも受け取り方によって、ねじ曲げて伝えられる危険性もありますし、後で、そんなことを言っていないと主張しても、保険会社のほうが、うちのメモにはそういったと書いてある、とメモを出して主張された場合、証拠が残っているぶん保険会社の方が、優位に立ってしまう可能性も否定できません。できれば、保険会社の調査員とのお話は、ICレコーダーなどに録音しておいた方が良いでしょう。